よねだ ところどころ

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

第二十二号

則光の水源　別所池

ベッショという地名と則光

白山・東山から流下する水は、上記の明治四十四年地形図によれば、三か所のため池で貯水され、則光の水田面に落ちる。則光の米作りにとっては欠くべからざる水利施設である。このため池からの放水は、「大平谷川」となり、さらに「深渡川」となる。

注　上記地形図の青で示したところが水系

「大平」という名称はため池の上流の小地名「オオヒラ」に由来する。また、新池の上流は「大砂留」という地名で、上流の地形の様子を示すものである。則光出身の土屋凞さんは、「則光見聞記」でこの水系の様子を以下のように記載している。

「雨が降るとその都度にすぐ**土砂とともに赤い水となり流れ出**て、年々川底を高め、長い間昔からの年月に、ついに**耕地より川のほうが高くなり**、いずれの小川も高いところを流れて、新田裏から（現川原前）川端（現八幡前）若神子と南西に流れ、**川堤　カワドイ**という土堤があり、この土堤を利用して若神子より新田と為岡通ずる重要な道路となっており、この道路へ出るには所々に坂を上って連絡しており、為岡方面へ行くには新田より坂を下っていくようになっており・・」

注　文章の表記を一部読みやすく改変してあります

この記述からすると、**別所は大平谷川の出口**にあたり、ここから大量の土砂が洪水とともに排出されるので、則光には「**扇状地**」が形成され、小河川は「**天井川**」となっていたことがわかる。耕地整理のため現在は昔の姿はなくなるとともに地名も富田と変更された。また、別所新池の下には水車が設置されていたことも記載されているが、当時のほぼ自給自足の時代にあっては、穀類を食べられるようにする重要な場所であった。別所は本所に対応する地名で、ため池等施設を管理する場所であったことが想定される。